

富山港線沿線地区

(富山県富山市)

- 計 画 期 間 平成16年度～平成20年度
- 面 積 980ha
- 交付対象事業費 8,397百万円
- 市人口 417,600人(地区内人口50,000人)

ポイント 歴史・文化財と公共交通を活かした **地区概要** 富山港線沿線には、岩瀬の古い街並みなどの歴史的な文化遺産が数多くあり、また、工場や住宅地が連たんしていることから、路面電車を活かした賑わいのあるコンパクトなまちづくりを進める。

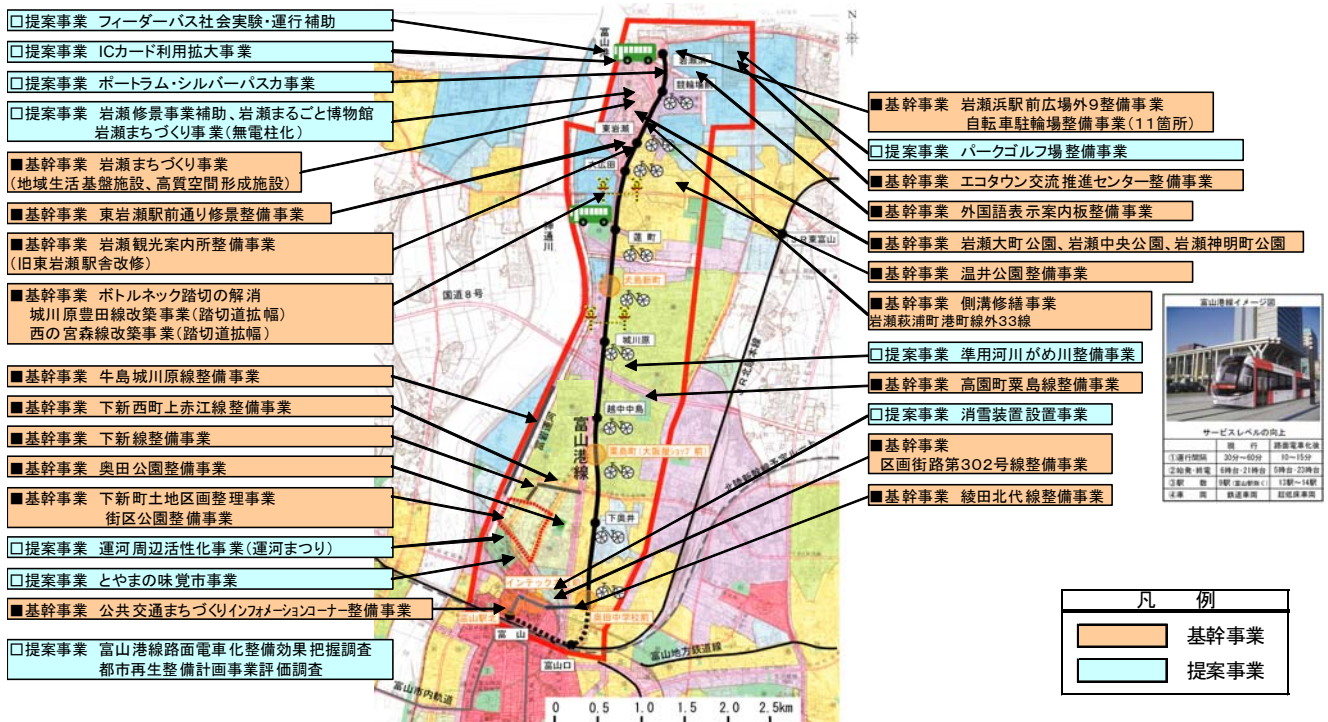
目 標 富山港線を活性化し、その沿線に居住、商業、業務、文化等の都市の諸機能を集積する、公共交通を軸としたコンパクトなまちづくりを実現する。

指 標 富山港線が LRT 化され、新駅設置や運行頻度が高まるなど利便性が向上するのを契機とし、岩瀬の古い街並みや歴史的な文化遺産を活用して観光客を誘導し、また沿線の都市基盤整備により定住人口の増加を図り、それぞれの相乗効果を期待するものである。

指標	従前値	評価値
富山港線の乗降者数	3,400 人/日 (H14)	4,615 人/日 (H20)
観光客入込数	280 千人/年 (H14)	337 千人/年 (H20)
居住者数	50 千人 (H14)	49 千人 (H20)

事業内容 基幹事業 (6,849 百万円) → 道路 (幅員 27m～6m、延長 10,385m)、公園 (6 箇所、29,708 m²)、駅前広場整備 (11 箇所、2,960 m²)、自転車駐車場 (11 箇所、388 台)、岩瀬サイン看板設置 (15 箇所)、エコタウン交流推進センター (1 箇所、1,163 m²)、公共交通まちづくりインフォメーションコーナー (1 箇所、70 m²)

提案事業 (1,670 百万円) → 岩瀬修景事業補助 (1 式)、フィーダーバス運行事業 (2 ルート)



地区の現況と課題

近年の富山港線の利用者数は減少の一途をたどり、併せて少子高齢化に伴う人口減少傾向が沿線地区でも見られ、平成7年から平成12年の5年間で人口が約3%減少しており、定住人口の増加を促すまちづくりが必要である。また、岩瀬地区は歴史的に価値のある建造物が現存する地区であるが、観光客が回遊して時間消費できるルートが無いことや、その歴史的街並みに調和した街路等の整備の実施が求められていた。

提案事業の特徴

岩瀬まちづくり事業

岩瀬地区は、「岩瀬大町新川町通り町並整備推進協議会」が策定したまちづくりの基本方針のうち、大町・新川通りを中心とした歴史的町並みに調和した街路の整備等を（行政が取り組むべき事項として）実施し、来街者が集まる賑わいのあるまちづくりを進めることとした。

また、伝統的建物の修景基準を作成し、それに合わせて建物の改修を実施する者に補助をし、歴史的街並みの保存・再生を図る。

フィーダーバス運行事業

富山港線の岩瀬浜駅と蓮町駅を基点とし、東西方向にフィーダーバスを運行することにより鉄道の支線的役割を担い、富山港線の利用者増加と公共交通不便地域の解消を図る

まちづくりの効果、持続的取り組み

公共交通の利便性の向上と、街並みや歴史的文化遺産の活用との相乗効果により、富山港線の乗降者数の大幅な増加とともに、観光客も大幅に増加した。

また、各校区の自治振興会が中心となって組織する「富山港線を育てる会」では、電停でのプランター設置や、ベンチの寄付など、富山港線の利用促進や沿線地域のまちづくりに取り組んでいる。

さらに、岩瀬地区では地元住民による「岩瀬案内グループ」が発足し、地域の歴史の勉強など自主的な研修を行い、ガイド技術の向上を図り、観光客への案内をボランティアで行っている。

森雅志 富山市長のコメント

本市では、高齢化などによる移動制約者の増加や、人口減少、環境負荷の増大などの将来の諸課題に対応するため、公共交通を活用し都市機能を集約した「コンパクトなまちづくり」に取り組んでいます。

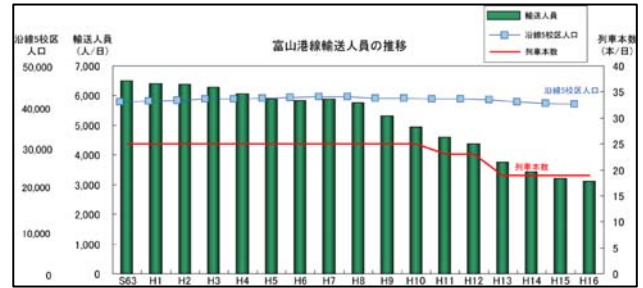
本地区では、コンパクトなまちづくりのプロジェクト第1弾である富山港線のLRT化に併せて、まちづくり交付金を活用し、駅前広場や駐輪場の整備、フィーダーバスの導入などの駅アクセスの改善をすすめるとともに、沿線での住宅建設の促進や、区画整理による緑豊かな住環境の整備、さらには岩瀬の古い街並みや歴史的文化遺産、豊かな水辺空間を活用した観光客の誘致など、賑わいのあるまちの再生を目指して事業を推進してきました。

おかげさまで減少傾向にあった富山港線利用者や岩瀬地区を回遊する観光客入込数も増加に転じ、事業の効果が現れているものと考えております。

富山港線を育てる会会長

亀谷義光氏のコメント

富山市が中心に進めた富山ライトレールは平成18年4月に走り出して5年目を迎えました。沿線住民、特に高齢者の利用が格段に増えたことと、車から電車への転換者が激増したことから、以前の富山港線時代の利用者は1日2,200だったものが、現在4,500人以上と倍以上の利用者増となり今日まで続いております。また沿線には住宅、マンション等が増加傾向にあり、活気を取り戻しつつあります。



▲ 沿線人口と富山港線利用者数の推移



▲ 国指定重要文化財 北前船回船問屋森家



▲ 富山ライトレールとフィーダーバスの結節（岩瀬浜駅）



▲ 「岩瀬案内グループ」の活動



▲ 「富山港線を育てる会」の様子